

第 36 回建設業経理士検定試験 1 級 原価計算

〔第 1 問〕 解答にあたっては、各問とも指定した字数以内（句読点を含む）で記入すること。

問 1

建設業での労務費はかなり限定的で特徴的である。直接
工事に従事する生産労働者に対して支払われる賃金ある
いは給料手当等を労務費として扱い、技術関係者や現場
管理者等に支払われる給料手当等は、本来は労務費であ
るが、建設業では人件費として工事経費に算入される。
なお、発注形態は外注費であるが、実質的に工事現場で
の労務作業とほぼ同等の内容をもつ場合には、これを外
注費から除外し、労務に含めて記載することができる。

問 2

個別原価計算は、1つの生産指図書に指示した生産品数
量あるいは生産サービス量を原価集計単位としている。
一方、総合原価計算は、一定期間における同一種生産物
あるいは同一種サービスの生産量を原価集計単位として
いる。生産活動が受注個別生産型の企業には個別原価計
算が、見込大量生産型の企業には総合原価計算が適して
いる。しかし、この対応は絶対的なものではない。例え
ば受注生産企業であっても、個々の受注生産の規模が小
さく、1口の受注量が比較的多量であるような場合には
、総合原価計算を採用することもある。また、見込生産
企業であっても、自家用建物や試験研究用製品の製造の
場合には、個別原価計算の手続を採用することになる。

〔第2問〕

記号（ア～ナ）

1	2	3	4	5	6	7	8
タ	セ	エ	チ	ナ	イ	コ	ス

〔第3問〕

問1

ブルドーザの取得価額 26,640,000 円

問2

T工事現場への当月配賦額 527,990 円

問3

当期の損料差異 16,190 円 記号（AまたはB） B

〔第4問〕

問1

(1) 3,200,000 円

(2) 3,600,000 円

(3) 9,600,000 円

(4) 28,800,000 円

問2

6,600,000 円

〔第5問〕

問1

完成工事原価報告書		
自 20×4年9月1日		
至 20×4年9月30日		
X建設工業株式会社		
(単位：円)		
I. 材料費		1,669,400
II. 労務費		1,228,700
(うち労務外注費	427,000)
III. 外注費		397,900
IV. 経 費		756,650
(うち人件費	455,250)
完成工事原価		4,052,650

問2

1,475,550 円

問3

① 重機械部門費予算差異	13,500	円	記号 (AまたはB)	A
② 重機械部門費操業度差異	10,300	円	記号 (同 上)	B